

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600285		
法人名	サントラフィック株式会社		
事業所名	グループホームふるさと		
所在地	三重県津市戸木町4113-56		
自己評価作成日	令和1年6月19日	評価結果市町提出日	令和元年9月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470600285-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和元年7月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ふるさとの現場の理念である「笑顔・家族」をモットーに明るく楽しく生活している。お風呂は天然温泉で広々とした浴室でゆったり使用している。他の施設との行事(夏祭り・秋祭り等)や合同研修、委員会も実施している。裏庭には数年前に「東屋ガーデン」がオープンし野菜を作ったり、散歩コースでもあり立ち寄り交流の場ともなっている。また災害対策にも力を入れており、備蓄の管理や避難訓練、停電時の対策もその都度課題が見つければ、職員同士でも話している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

津市東部、伊勢自動車道と国道165号線の交差する辺りの小高い里山に建てられた事業所は、1階がデイサービス、また隣には同じ運営法人によるグループホームが開設しており、地域の福祉事業所としてのランドマーク的な存在となっている。設立は2002年で今年で29年目を迎えており、入れ替わりはあるものの1ユニット9人の入居者の常と変わらない生活がうかがわれる。事業所のモットーは「笑顔・家族」であるが、これは数年前に職員皆で自発的に考え出したもので、今もその時の思いが大切に引継がれ日々の支援に活かされている。また通常事業所内で行われることが多い「運営推進会議」を自治会集会所と交互で行うなど地域との信頼関係は強くまさに地域に根差した事業所と言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現場のモットーである「笑顔・家族」を皆で共有し明るい環境で過ごしている	数年前の外部評価の折に、会社のモットーとは別にグループホームとしての理念を作ってはどうかと言われ、職員皆で考えて「笑顔・家族」を現場のモットーとして決めた。職員はこれをよく理解し、利用者9人を家族として支援に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り・秋祭り・餅つきの際は、地域の方との交流も兼ねて参加して頂いている	自治会には会社として加入しており、近隣の住民には夏祭りなどのイベントに参加してもらって交流している。また運営会社のグループ3事業所と合同で様々なイベントを行っており地域の一員としての地歩を固めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、包括支援センターの担当者から助言を頂いたりし参考にしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隣接するグループホームと合同で開催しており行事等の活動報告や地域との交流についても意見交換し情報共有している	年間6回、偶数月の最初の土曜日の夜7時半から隣接の「グループホームひまわり」と合同で実施しており、会場は自治会集会所と交互に持ち廻るなど地域の協力が得られている。しかし参加者は、自治会長や各組長等の他は殆どなく行政や家族などの立場の違う参加者の出席が望まれる。	運営推進会議はグループホームに関係する様々な参加者から意見を聞き運営に反映していくものであるが、現状では利用者や家族、指導的立場の行政、地域の識見を有する人たちの参加が見られない。今後これらの人達の参加を得る努力をされた
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	津市役所介護保険課や援護課の担当者と必要時には管理者が出向いて意見交換している	市役所へは月2回ほど様々な案件で行っているが、事故報告などの重要事項の説明や生活保護関係の相談など殆どが本庁とのやり取りである。そのほか月例的な報告などでの担当者との関係は良好で協力関係がよく築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待に関して年に数回勉強会をしており意識を高め職員同士でも話し合いをしている	特段のマニュアルは設置していないが、運営本社での研修会の他、毎月行われている「ふるさと会議」の後で年4回ほど職員による勉強会を開いており、この中で「虐待や拘束」を特に重要テーマとして捉え意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を未然に防ぐ為ストレスに関する勉強会をし、職員でも日々注意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネージャーが中心になり必要時に備え対応している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より入居時に家族に事細かに説明し対応している。入居後も不安や疑問には真摯に対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望を聞く事が多い。エレベータ内に御意見箱設置もしている	家族の面会が比較的多い事業所であり、職員とはざっくばらんな話しが出来ている。その中で特に重要と思われるような話は会議などで報告し、職員全員で共有しながら対処を考えている。今のところ特に運営に関することは出されていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者には直接管理者が職員の思いを伝えている。また管理者は職員個人面談を実施し文書で代表者に報告している	職員意見としては普段から管理者が良くこれを聞いており必要であれば会社に上げている。また社長からの要望により、3カ月に一度職員全員から聞き取りを行いそれを文書にして社長に上げるというシステムが出来上がっており、これによって解決された問題も多くある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者の意向もあり勤務時間体制が変更され、その際管理者が職員に説明し、理解を得られる様努力した経緯がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他部署との合同研修委員会設置し、様々な研修を開催し日々努力している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	委員会・合同行事等を通じて交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々に要望等聞き安心できるよう努めている。何より普段から少しの「気付き」を大事にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に面会時には、家族・職員とも何でもきさくに話し合える関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	提携医を中心に他の施設とも連携しながら早めに対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	明るい雰囲気を作り、何でも言い合える環境作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前に事前調査表を作成し、入居後その書類を参考に本人と家族に寄り添いながら関係作りをしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前入居されていた施設との交流があったりされる方も見えたり、管理者が中心となり現状について報告している	利用者全員が旧久居市と周辺市町の出身であり、馴染みの人や元の近所の友人などの訪れが度々ある。馴染みの所へは墓参や友人親戚の見舞いなどで訪れることが多く、すべて家族が対応しており、昨年からの利用者の入れ替えもあって今年はそういう形での関係継続が支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様々なレクリエーション行事をホールで皆さんでしながら、一方で1人になる空間も大事であると考えその時の状況で支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時に、今後の事に対して相談や支援が出来る様家族には話をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困難な局面になった時は職員間で話し合い本人本位での最善策を考えている	利用者の殆どが介護度は高くないものの、認知症的には中程度以上で、意向のつかみ難いことも多々ある。そんな中、普段から声掛けを励行し、どんなことでも利用者の声に耳を傾けるなどコミュニケーションを支援の第一義としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族より生活歴等を事前に確認し、入居後の参考にしながら対応している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調管理には気を配りながら早期の異変に対応出来るようにしている。また温度・湿度管理も徹底している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーが中心となり会議や家族の意向も取り入れながら介護計画書作成し、最終的に家族に説明し同意を得ている	入居に際して、先ず利用者本人と家族から聞き取りを行いそれにアセスメントシートを加えて3カ月の仮計画を立て、全員でそれをモニタリングしながら家族意見も取り入れ次の6カ月計画に移行することとなっている。家族を含めたチームという形で計画策定に努力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡・受診ノート、介護記録などを活用し、職員間で共有している。管理者不在時でも早期対応事案ならその日の職員で決定し、連絡ノートに記入している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人や家族に沿った形で対応している。その時々に合わせて支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員同士で考えながら、また入居者様にも昔の知恵を頂きながら楽しく生活出来る様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時含めて提携医とは密に連絡が出来、気軽に相談出来る関係である。また訪問診療日以外でも電話でアドバイスを頂いたりもしている	かかりつけ医を持つ利用者は3人で診療には殆どの場合家族が対応している。協力医の訪問診療は月1回であるものの利用者一人ずつの対応で月5回は来てもらっており、これらの医療的な充足は利用者・家族の大きな安心となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには常勤で看護師はおらず、同施設内のデイサービスや隣接するショートステイの看護師に相談や助言を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が家族や病院関係者と細部にわたり情報交換や相談にも対応している。ショートステイも支援・対応できる体制をとっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来る範囲内で対応するが設備上困難な事もあり、入居前に家族様にお伝えしている。ただ工夫しギリギリまで対応したケースもある	事業所としては施設内の規模や医療的な対応を考慮して重度化には取り組んでおらず、入居に際しての説明で本人・家族には納得してもらっている。従って介護の度合いが進んできた場合などは特養等への申し込みを示唆している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	提携医と随時連絡は取っているが、場合によっては救急要請の判断する事もある。内部勉強会を実施し事故や急変時の報告方法等も話し合っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施やふるさと現場独自でもAED使用方法について勉強会もしている	災害訓練としては消防署指導で年2回、独自に避難訓練を1回実施している。最も危惧するのが火事と台風であるが、特に昨年は台風で3度の停電があり非常に困窮したことから本年度中には蓄電池を導入する予定である。備蓄としては5日分の飲料水、食糧を確保しており、防災意識は高い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛け(コミュニケーション)の重要性を職員皆が理解しており、一人一人に合わせて対応している	基本は利用者本位に立った対応で、特に失禁への対応・声掛けや処理のあり方などに気を付けている。一人ひとりそれぞれに合った対応を心掛けることと呼び名、職員との相性など様々な場面での細やかな支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いが第一であることを職員皆が認識しており、出来る限り希望に添えるよう対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人第一であることを日頃から職員同士話ししており、職員本位になりそうな時は声掛けしあっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重しながら一緒に服を選んだりして工夫している。家族様にも協力してもらいなるべく昔使用していたものをお願いしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は業者委託の為、片付け等手伝ってもらう時がある。また行事の際は弁当を購入し対応している	食事は3食とも献立と材料を外注しているが、利用者一人ひとりの対応を大切にすべく調理は職員が行っている。決して広くない食堂で利用者が一堂に会しての食事風景はいかにも家族的であり、食事そのものの喜びもさることながら互いの関係性や安心感が何よりのものとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは業者委託でカロリーなどは管理されている。副食は刻みにする方は職員が対応している。誕生日の日は赤飯を食べていただきお祝いしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア、毎週日曜日にポリデント洗浄し、口腔内の清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各部屋にトイレが設置してあり安心して使用されている。プライバシーも守られている。それぞれトイレ誘導時間を出来る限り把握し合わせている	利用者のうち2名は完全に自立しているが、その他については一部介助が必要である。尿意・便意の自覚のあるときはトイレへの誘導によりスムーズな排泄が出来る。何より各居室にトイレが設置されていることは失禁などの防止に役立っており、利用者の尊厳が守られることにつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ストレスを溜めない事、リハビリ体操等取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉の湯を入れており、浴室も広くのんびりと入浴されている。入浴時間は午後からに決めてはいるが臨機応変に対応している	入浴は週2回を基本とし、1階のデイサービスの大きなお風呂で一度に4～5人ずつが楽しく利用している。時間的にはデイサービスの空いた午後からとしており、湯は近くの榊原温泉の湯で利用者同士の会話も弾み大きな楽しみの時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に休み時間を設けており、各自がおのおのの時間を有意義に使っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬表や受診ノートを作成しており、職員もそれを参考にしている事が多い。症状の変化にも敏感に対応し管理者に報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操や、編み物等その人に合わせて支援しており、生き甲斐になれるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本社が作った庭「東屋ガーデン」を利用することもあったり散歩や外気浴も状況に合わせてしている	日常的な外出は、運営会社による近くの「東屋ガーデン」への散歩や玄関前での外気浴などである。またデイサービスと合同で会社の園芸部の畑での野菜の摘み取りなども楽しみの一つである。その他、年中行事として初詣や花見など年6回ほどは出掛けており、外出支援は充足している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所で保管しており必要時には家族に報告し使用している。急用での使用時は管理者が中心になり買い物に行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今現在は見えないが今後そのような状況の方が見えたら相手側にも了承を得ながら臨機応変に対応していきたい		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は檜に香りが随所に感じられ、季節感に対応するため、入居者様と職員が手作りで作品を作っている	事業所内、特に居間兼食堂は食器棚や冷蔵庫が壁際に設置されており決して広くはないが、それがかえって家庭的な雰囲気を出しており寛げる空間となっている。全体的には木質を多く利用した落ち着いた造りで各居室との動線も過不足なく居心地よく工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは狭いが椅子を並べて気の合った入居者様が会話を楽しんだりして思い思いに過ごしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔の写真や好きだった本等を部屋に置いて見える方もおられ、穏やかに暮らせるよう工夫している	全ての居室が同じ大きさと造りで、居間や廊下と同じ木質で統一されており落ち着いた空間となっている。特に居室内の手洗いとトイレの設置は、利用者のプライバシー確保は言うに及ばず排泄支援など利用者のための造りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間が限られている中でも入居者が素で居られるよう環境づくりをしている		